NIHON KOHDEN
日本光電工業株式会社

2027年3月期第2四半期決算
決算説明会における主な質疑応答

2026年11月11日、東京

Q1：国内で消耗品の価格競争が激化している要因と対策を教えてほしい。

A1：国内では消耗品の SpO_2 プローブでサードパーティ品との価格競争が激化している。測定精度や品質など純正品の付加価値を訴求するとともに、esCCO（非侵襲連続推定心拍出量）など臨床的価値の高い当社独自のパラメータや、アラームマネジメントによる業務効率化を組み合わせた提案を強化し、挽回を図る。また、コストダウンも進めることで、純正品の競争力を高めていきたい。

Q2：国内の通期見通しについて、期初予想から修正した背景を教えてほしい。予実管理の手法は過去から変更しているか。

A2：国内では、補正予算や本年6月の診療報酬改定に伴い、上期末から下期にかけて医療機関における設備投資意欲の回復を見込んでいた。病院経営は改善傾向にあるものの、賃上げ・物価上昇への対応が優先的に進められており、上期において医療機器の設備投資に慎重な動きが継続したことから、下方修正した。予実管理については、上期に国内でCRM（顧客管理システム）を更新しており、商談管理と業績予想の精度向上に取り組んでいる。また、次期中期経営計画に向けて、計画策定および予実管理を根本から見直す予定である。

Q3：国内の下期見通しを据え置いた背景を教えてほしい。

A3：国内では、上期においても自社品は堅調に推移しており、病院経営の緩やかな回復に伴い、期末に向けて設備投資意欲の回復が見込まれることから、下期見通しを据え置いた。補正予算による支援事業の申請においては、医療DXに向けた商談が前期に比べて増加している。医療DXを通じた医療従事者の業務効率の向上は、医療機関における重要な経営課題であり、業務効率化に資する医療機器・DHS製品・ITシステム商談の着実な獲得に注力する。DPC（診断群分類包括評価）制度では、医療の質および医療経済性の向上が評価に反映されることから、生体情報モニタや医療DXへの投資が病院経営の改善につながる点を訴求している。補正予算による支援事業に採択されなかった商談についても、初期導入コストを抑えたサブスクリプションモデルなど、病院のキャッシュ・フローに合わせた提案を強化していく。

Q4：来期において、国内の政策動向、市場環境をどのように見ているか。

A4：補正予算の投入や本年6月の診療報酬改定により、病院経営は改善傾向にある。来期に向けては、より大規模な予算編成が予定されており、病院経営への追加支援策も協議されていることから、前向

きに見ている。2040 年を見据えた地域医療構想に関する議論も本格化する中、医療機関の機能分化が進むと見ている。また、2030 年末に向けて全ての医療機関への電子カルテの普及が進められており、病院間のデータ連携など医療 DX に向けた需要は継続すると見ている。

Q5：上期においては、販管費の増加が減益要因となったが、下期においては販管費の伸びを抑制する計画にある。賃上げ対応がある中で、どのように抑制に取り組むか。

A5：賃上げ対応に伴う人件費の増加を見込む一方、全社収益改革を通じて人員数の伸びの抑制や残業時間の削減に取り組んでいる。また、開発業務の効率を高め、不要不急の製品改良の見直しを進めている。

Q6：中期経営計画の経営目標値と最終年度予想の差異が大きい。長期ビジョンで掲げる営業利益率 15%の目標達成に向け、どのような施策を講じるか。

A6：中期経営計画の経営目標値を大幅に未達となる見込みであることを、経営陣一同重く受け止めている。成長性、収益性、資本効率性の改善に向けた施策は着実に進んでいるものの、トップラインの成長が想定どおりに進んでいない。次期中期経営計画においては、事業ポートフォリオや組織構造改革まで踏み込んだ改革を実施し、収益性の改善を図りたい。営業利益率 15%は当社の事業構造から達成可能と見ているが、実現に向けて次期中期経営計画をどのように組み立てるかが重要と考えている。

Q7：2020 年に長期ビジョンを策定してから事業環境が大きく変化する中、見直すべき点はあるか。従業員満足度が低下している背景も教えてほしい。

A7：地政学リスクの高まりや各国における自国優遇政策などグローバルな経営環境が変化する中、マルチプラント化や現地生産化を含め従来以上に迅速かつ機動的な対応が求められている。従業員満足度については、全社収益改革の推進に伴い各部門での負荷が高まっている一方、取り組みが十分な成果につながっていないことが影響していると見ている。長期ビジョンで掲げる変革の方向性は変わらず、次期中期経営計画に向け、態勢の立て直しを図る。

以　上

＜ご留意事項＞

※本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたものではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。